

卒論中間発表

池上 慧

November 9, 2017

発表の流れ

1 目的

2 モデル

3 実証

研究対象

- 混雑現象の構造推定
- 混雑現象：プレイヤーは選択肢のうちどれかを必ず選ばなければならない、かつ選んだ選択肢を選んだ人数が多いほど効用が下がる状況を指す。

具体例

- 満員電車
- 私立大学の入試日決定
- テーマパークへの来場日決定
- 流行

先行研究

1 Viauoux (2007)

バスと車の移動手段選択における混雑現象の影響を推定。個人が混雑回避的行動を取っていることを明らかにした。

2 柳沼・福田 (2007,8)

Viauoux (2007) を定式化し直し、シミュレーションデータで推定が行えることを確認した。

3 松村他 (2009)

乗車する電車の選択における混雑モデルを推定。混雑に対する不効用を個人が持つことを明らかにした。









